



Brush up Program  
for professional

平成28年度文部科学省「職業実践力育成プログラム」(BP)に認定されました。  
社会人を対象とした実践的・専門的なプログラムです。

令和2年度  
高齢社会における  
地域活性化コーディネーター  
養成プログラム

**募集案内**



KYORIN

**杏林大学**

# 目次

- 令和2年度「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」実施要領 . . . . . P 1～4
- 開講科目について . . . . . P 5
- 必修科目(特別講座A) . . . . . P 6
- 選択科目 . . . . . P 7
- 選択科目(特別講座B) . . . . . P 9、10

## 巻末【受講希望者提出書類】

- 令和2年度「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」履修許可願
- 履歴書

### 〔同封物〕

- 書類提出用封筒 (郵送の際は **84円切手** を貼付してください。)

### — 履修証明プログラム —

本講座(高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム)は、文部科学省の制定する学校教育法に基づく「履修証明プログラム」として実施します。社会人(市民)を対象としており、総時間数60時間以上のカリキュラムを修了し、本学による認定を受けた者に対して履修証明書が授与されます。

※ 履修者に対して単位や学位が授与されるものではありません。

## 令和2年度

# 「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」 実施要領

### <趣旨>

本プログラムは既に地域活動を行われている方や、今後さらに地域活動を深めたい、広げたいと考えている方を対象に、地域振興やコミュニティに関する基礎知識や高齢社会における健康をめぐる諸問題を学びます。また、地域活動に必要なファシリテーション能力や対人理解能力、健康力アップ支援策の習得を目指し、更なるスキルアップを目指します。

本講座の開講は定年前後世代や高齢の方はもちろんのこと、どの世代の方にも「学び直し」、「学び続ける」機会を提供するものです。

### <授業>

授業は必修科目と選択科目で構成されています。

必修科目（特別講座A）については、年間（春学期及び秋学期）を通して15回の教室内講義で組み立てられ、選択科目は春学期または秋学期の中で、1科目15回の授業で組み立てられています。

必修科目は受講生全員に受講していただきます。

選択科目は特別講座Bを含め32科目を用意しておりますので、関心のある授業を5科目以上選択してください。

### <修了証交付要件>

1ヵ年（春学期・秋学期）のうちに上記の科目（必修科目、選択科目5科目以上）を履修して修了要件を満たした場合に「履修証明書」を発行します。

修了要件として、各授業の出席率が2/3以上（全15回中10回以上の出席）であること、成績基準を満たすことを原則とします。ただし、災害など非常時下における個人的事由によらない場合は、出席率が満たなくても、履修証明書を交付することがあります。

### <資格・対象者>

- ・高等学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力を有する社会人（市民）
- ・地域活動を既に行われている方、今後さらに地域活動を深めたい、広げたいと考えている方

### <開設期間>

令和2年4月から翌年3月までの期間（1ヵ年）となります。

### <履修に際して>

- ① 講義は本学学生とともに履修し、課題についても学生と同様にレポート提出等を前提とします。
- ② 授業に臨む意欲や態度、積極性、判断、思考やレポート等の課題、試験などにより成績評価を行います。
- ③ 出席状況の確認を含めて期中に中間指導を実施します。

## <登録料・履修料・諸費用>

対象者	登録料	履修料
4市（三鷹市、八王子市、羽村市、武蔵野市）のいずれかに在住、在勤の方	45,000円 (1ヵ年分)	無料
上記以外の区市町村に在住、在勤の方		100,000円

※登録料、履修料のほか、別途「学生教育研究災害傷害保険」と「学研災付帯賠償責任保険」（合計1,340円）に加入していただきます。

※実験、実習等に要する費用、その他、教材等に要する費用は、履修生の負担となります。

※お支払いいただいた履修料等はお返しできません。

## <開講場所>

杏林大学井の頭キャンパス ※駐車場、駐輪場はございません。

※教室については、ガイダンス時にお知らせします。

## <応募方法>

当プログラムの履修を希望する方は、応募期間内に次の4点を本学地域交流課宛に郵送もしくは直接ご提出ください。

- (1) 「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」履修許可願（所定書式）  
記載内容の確認のため電話連絡をさせていただく場合がありますので、日中連絡のつく電話番号を記載してください。
- (2) 履歴書（所定書式） ※巻末添付・要写真（3cm×2.4cmの縦長）  
地域活動の関わりや、今後どのような地域活動を行いたいかについて詳細に記載してください。
- (3) 履修の資格を証明し得る書類（卒業証明書等の入手が困難な方にご相談ください。）
- (4) カラー顔写真（3cm×2.4cmの縦長） ※履修生カードを作成する際に使用します。

## <応募期間>

令和2年2月1日（土）から2月29日（土）必着締切です。

直接ご持参される場合には2月29日（土）13:00までに地域交流課にお越しください。

地域交流課：井の頭キャンパス C棟1階事務室

## <定員>

最大20名

## <選考結果の通知>

書類選考の上、令和2年3月5日（木）に通知を発送致します。

履修許可書とともに同封されている振込用紙で履修料等をお振込みください。納入確認後、授業要目をお送りします。

<お問い合わせ> 井の頭キャンパス 地域交流課（C棟1F事務室内）

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1

TEL：0422-47-8052 FAX：0422-47-8054

MAIL:area@ks.kyorin-u.ac.jp

（平日・9時～17時15分、土・9時～13時、日・祝休）



お願い

井の頭キャンパスには徒歩または公共交通機関を利用してお越しください。

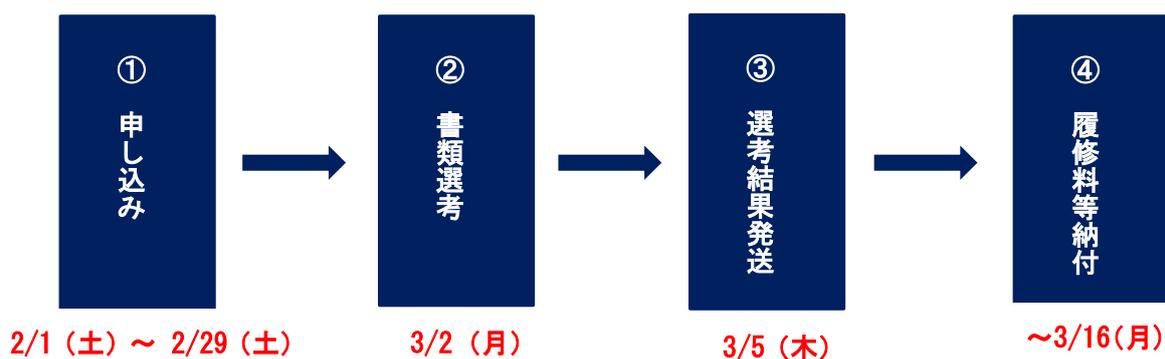
※井の頭キャンパスへのアクセスの詳細は、右のQRコードからご確認ください。



## － 応募に必要な書類を再度ご確認ください －

- (1) 「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」  
履修許可願（所定書式）
- (2) 履歴書（所定書式） ※巻末添付・要写真（3 cm×2.4 cmの縦長）
- (3) 履修の資格を証明し得る書類（卒業証明書等の入手が困難な方はご相談ください）
- (4) カラー顔写真（3 cm×2.4 cmの縦長）

## － 応募の流れ －



## － 応募後のスケジュール －

- 令和2年 3月末までに授業要目送付（履修料等納付済みの方）
- 4月 3日（金）新学期オリエンテーション
- 4月 6日（月）授業開始
- 4月 17日（金）選択科目の提出締め切り



# 開講科目について

授業は必修科目と選択科目で構成されています。必修科目（特別講座 A）は、年間（春学期及び秋学期）を通して 15 回の授業で組み立てられ、選択科目は春学期または秋学期の中で、原則 1 科目 15 回の授業で組み立てられています。（集中講義を除く）

必修科目と、選択科目 5 科目以上を選択履修し、合わせて 6 科目（135 時間）以上を履修していただきます。

授業日が祝日や行事と重なった場合には補講を行います。

## ■必修科目（特別講座 A） ※詳細は P6 を参照

受講生全員必修です。

原則的に水曜日、6 時限（18 : 00～19 : 30）の受講となります。

1 年間で 15 回の講義を用意しております。

## ■選択科目 ※詳細は P7・8・9 を参照

指定する 32 科目（特別講座 B を含む）より 5 科目以上の科目を選択履修していただきます。

特別講座 B は原則的に水曜日、15 : 30～17 : 30 に開講します。

## ■時間割

1 時限	9 : 00～10 : 30	4 時限	14 : 40～16 : 10
2 時限	10 : 40～12 : 10	5 時限	16 : 20～17 : 50
3 時限	13 : 00～14 : 30	6 時限	18 : 00～19 : 30

※特別講座 B の開講時間 : 15 : 30～17 : 30（原則）

# 必修科目（特別講座A）

## テーマ：『高齢社会における課題とその取り組み』

高齢社会、グローバル社会における様々な課題は、国だけではなく、地域づくりを考えた時にも高齢化、グローバル化の背景抜きには考えることができません。同時に地域内でのつながりの創出やコミュニティを考え、さらには異文化コミュニケーションなどの知識、健康で活力ある生活を実現するための多様な基礎知識、課題、その取り組みを学び、地域活動や地域リーダーとして生かす技法を学びます。

### ■講座を提供する学部ごとに、小テーマを設けています(第2回～第11回)

- ・保健学部、医学部：「高齢社会で知っておいてほしいこと」
- ・総合政策学部：「身近な社会問題に関連する地域活動を通して」
- ・外国語学部：「グローバル・観光・コミュニケーションという文脈で考える高齢社会」

### オムニバス形式講義（全15回）

原則的に水曜日、6時限（18：00～19：30）に開講

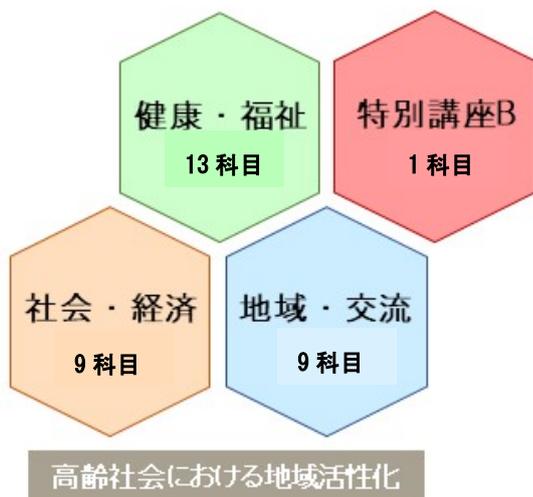
回	日程	授業内容	教員
第1回	4月22日	「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」とは	古本泰之(地)
第2回	5月13日	超高齢・少子社会と地域包括ケアシステム	片桐朝美(保)
第3回	5月27日	コミュニティ通訳で地域交流	宮首弘子(外)
第4回	6月10日	頭と身体を同時に使って生き生き暮らすためには（認知症予防）	齋藤利恵(保)
第5回	6月24日	HIV 流行の終結に向けた取り組み	北島勉(総)
第6回	7月8日	認知症とその予防について	富田泰彦(医)
第7回	7月22日	農村のコミュニティ図書館における取り組み	三浦秀之(総)
第8回	9月16日	「地域の魅力発見イベント」を通して考える地域交流と健康増進	志村良浩(外)
第9回	9月30日	マインドフルネスの基礎と活用方法	岡村裕(総)
第10回	10月14日	高齢者の食と栄養	大久朋子(保)
第11回	10月28日	グローバルなコミュニケーションって何？	坂本ロビン(外)
第12回	11月18日	震災や防災をテーマにしたワークショップ	進邦徹夫(総)
第13回	12月2日	震災や防災における本学の取り組み	三浦秀之(総) 石井博之(保)
第14回	12月16日	高齢化社会における課題とその取り組み	富田泰彦(医) 坂本ロビン(外) 他
第15回	1月6日	高齢社会をよりよく暮らすために	石井博之(地)

(地)…地域交流推進室、(保)…保健学部、(医)…医学部、(総)…総合政策学部、(外)…外国語学部

※オムニバス形式講義とはいくつかの独立したストーリーを並べて全体でひとつの授業にしたものです。

# 選択科目

高齢社会における地域活性化を「健康・福祉」「社会・経済」「地域・交流」の3つの分野・視点から学ぶことができるよう、全体で31科目の授業を設けています。また、地域活動を展開するうえで必要な基礎知識・技術を学ぶことができる「特別講座B」を設けています。その中から興味・関心のある科目を5科目（1科目15回の授業で構成）以上選択して頂きます。なお、時期・曜日・時限については変更の可能性がありますので、ご了承ください。



下記の31科目＋特別講座Bより5科目以上を選択

提供学部 保：保健学部 総：総合政策学部 外：外国語学部

No	分野	時期	曜日	時限	科目名	提供学部
1	健康・福祉	春	火	2	乳幼児・児童心理学/脇谷 順子	保
2			木	4	カウンセリング/脇谷 順子	保
3			水	5	臨床心理学概論/村部 妙美	保
4			金	5	食品衛生学/大久 朋子	保
5		秋	月	3	健康スポーツ科学(健福)/平澤 愛	保
6			火	1	健康社会学/北島 勉	総
7			木	2	老人福祉論/片桐 朝美	保
8			木	1	発達臨床心理学/櫻井 未央	保
9			金	3	介護政策論/岡村 裕	総
10			金	1	社会福祉学/岡村 裕	総
11			火	1	食品栄養学/大久 朋子	保

12			木	4	Introduction to Global Health Issues/北島 勉	総
13		集中	2021年3月頃(予定)		救命救助法/千田 晋治	保
14	社会・経済	春	月	2	租税法Ⅰ/知原 信良	総
15			月	3	時事問題研究B/島村 直幸	総
16			火	1	医療経済学/北島 勉	総
17			木	3	環境政策論/小野田 欣也	総
18		秋	月	2	出店戦略/加藤 拓	総
19			月	2	租税法Ⅱ/知原 信良	総
20			火	3	イノベーション論/糟谷 崇	総
21			木	1	家族法/北田 真理	総
22			木	1	生活と法/尾崎 愛美	総
23			地域・交流	春	月	2
24	水	3			実用英語演習Ⅰ/八木橋 宏勇	外
25	木	4			アジアの文学・文化(韓)/鄭 英淑	外
26	木	4			異文化コミュニケーション/坂本 ロビン	外
27	秋	月		2	日中比較文化論Ⅱ/詹 満江	外
28		火		4	観光学入門/古本 泰之	外
29		水		3	実用英語演習Ⅱ/八木橋 宏勇	外
30		木		4	地域圏研究Ⅱ(韓国)/鄭 英淑	外
31		木		4	地域圏研究Ⅲ(北米)/坂本 ロビン	外

注：時期・曜日・時限については変更の可能性があります。

1時限	9:00~10:30	4時限	14:40~16:10
2時限	10:40~12:10	5時限	16:20~17:50
3時限	13:00~14:30	6時限	18:00~19:30

# 選択科目（特別講座 B）

## テーマ：『地域活性化の理論と実践』

高齢社会に突入した日本において「健康寿命」は大きな社会的課題となっています。健康寿命の延伸においては適正な負荷量の運動を継続的に行うことが重要とされます。しかしながら、継続的な運動を行う上で個々人の努力（特に高齢者）には限界があり、地域内でのグループ活動という枠組みを編成した取り組みも求められています。またこのグループ間交流が拡張する形で交流人口の創出につながるケース（大阪府大東市など）も見られるようになっていきます。

そこで今年度の「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム：特別講座 B」では、以下の取り組みを通じて地域活動を展開するうえで必要な基礎知識・技術を学びます。学習方法は「講義・質疑応答」と「アクティブラーニング」で構成されています。

- ① 地域内を回遊するための魅力づくりにおける「健康」の活用可能性を理解していきます。
- ② 食と運動の面から見た健康に関する基礎的な知識と運動の効果について学んだ上で、昨年度の特別講座 B で作成したウォーキングマップを題材に、ウォーキングの効果を測定する技術を実体験・修得します。
- ③ ①・②の成果を踏まえて本学が連携する他自治体の住民とのイベントを通じた交流に取り組むことによって、「関係人口」「活動人口」の視点から、「健康」をキーワードとした地域の交流人口増加策を学びます。

原則として、水曜日 **15:30 ~ 17:30** に開講

回	日程	授業内容 ※(個人名)は担当教員
第 1 回	4 月 22 日	1. この講座で学ぶこと、考えること～ますます深化する都市型高齢社会、人口減少社会におけるミッション～（古本泰之） 2. 日常の活動の中からの組織論、リーダー論：持続性のある地域活動をもたらすもの（井上晶子）
第 2 回	5 月 13 日	1. 人は何に魅せられる～交流人口増加に向けての魅力づくり～（井上晶子） 2. 杏林大学連携自治体・東京都羽村市における地域活性化に向けた取り組み現状と課題について（羽村市産業環境部）
第 3 回	5 月 27 日	明日から役立つグループワーク手法：場面に応じた多様な方法（木暮健太郎）
第 4 回	6 月 10 日	1. より良い運動習慣を身につけるために①：カロリーに対する正しい知識（大久朋子） 2. 本講座のテーマ設定と概説（井上晶子ほか）
第 5 回	6 月 24 日	1. より良い運動習慣を身につけるために②：中高齢者における運動効果を考える。（健康づくりウォークに向けて）～運動によって変わること、変わらないこと、気をつけること～（石井博之） 2. 交流人口増加企画の組み立て①：『第 3 回みたか知り隊ウォーク』のマップを「健康寿命延伸」の視点から『健康づくりウォーク』として発展させる（井上晶子ほか）
第 6 回	7 月 8 日	1. より良い運動習慣を身につけるために③：正しい運動の仕方を学ぼう（健康づくりウォークに向けて）～心拍コントロールを中心に～（石井博之） 2. 交流人口増加企画の組み立て②：『第 3 回みたか知り隊ウォーク』のマップを「健康寿命延伸」の視点から『健康づくりウォーク』として発展させる（井上晶子ほか）

第7回	7月22日	演習①. 自分の動きで試してみよう：心拍コントロールを取り入れた運動実践～心拍センサーとスマートフォンを活用して～（石井博之）
第8回	9月16日	交流人口増加企画の組み立て1-③：『第3回みたか知り隊ウォーク』のマップを「健康寿命延伸」の視点から『健康づくりウォーク』として発展させる（井上晶子ほか）
第9回	9月26日(土)	演習②. コースを実際に歩いてみよう：心拍コントロールを取り入れた運動実践～健康増進マップ作成と日常生活への応用～（石井博之）
第10回	10月14日	地域交流企画の組み立て～「関係人口」の視点から①（井上晶子・古本泰之）
第11回	10月21日	地域交流企画の組み立て～「関係人口」の視点から②（井上晶子・古本泰之）
第12回	10月28日	地域交流企画の組み立て～「関係人口」の視点から③ 井上晶子・古本泰之）
第13回	11月中 土曜日	杏林大学連携自治体の方々と一緒に試してみよう：地域交流企画の試行（井上晶子・石井博之・古本泰之）
第14回		
第15回	12月2日	ふりかえり（井上晶子・古本泰之ほか）

※本講座は、教室内講義と学外フィールドワークで構成されます。

※各講義は原則として1回2時間で実施されますが、学外活動が伴う場合は、2時間を超えることもあります。

※第13回・第14回は11月中のいずれかの土曜日(単日)となります。(予定)

※講師等の都合により、日程は変更となる可能性があります。









—Memo—

—Memo—





杏林大学 井の頭キャンパス 地域交流課 (C棟 1F事務室内)

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀 5-4-1

TEL : 0422-47-8052 FAX : 0422-47-8054

MAIL : [area@ks.kyorin-u.ac.jp](mailto:area@ks.kyorin-u.ac.jp)